

6.17南北共同宣言一周年祝祭を成功させ、 『ウリナラ』に私たちの願いを届けよう！

あの感激の南北頂上会談も一周年を迎えることとなりました。昨年9月30日に発足した三千里鐵道では、この間に呼びかけ人は300人を超え、3月1日からはじめた募金は、1000万円(約750人)に届こうとしています。

三千里鐵道の趣旨にご賛同いただき、呼びかけ人になってくださった方、募金に応じてくださった方に、改めてお礼申し上げます。

さて、米国においてはブッシュ政権が誕生し、対朝鮮政策が変化していることで、『ウリナラ』においては、対話や交流の面で少なからず影響を受けているようです。

しかし、米国がどのような政策をとろうとも、南北共同宣言にありますように、統一の主体は、『ウリナラ』であるということです。南が米国の政策変化に追従することがあってはならないことはもちろん、北が、対話の窓口を閉ざしてしまうこともあってはなりません。

三千里鐵道は、いかなる状況の変化があろうと、『ウリナラ』の平和定着と統一実現のために大きな役割を担うであろう鉄道修復に、主体的に参与していくものです。

6月17日の南北共同宣言一周年祝祭は、三千里鐵道が行う初めてのイベントです。是非とも成功させ、『ウリナラ』に私たちの願いを届けようではありませんか。

6.17南北共同宣言一周年祝祭へのご参加をお願いします。

6.17南北共同宣言一周年祝祭のチラシと、当日の入場券(当日精算券)を同封いたしました。できるだけご友人、ご家族お誘いの上お越しくださいますようお願いいたします。

三千里鐵道がNPO(特定非営利活動法人)法人格を取得しました。

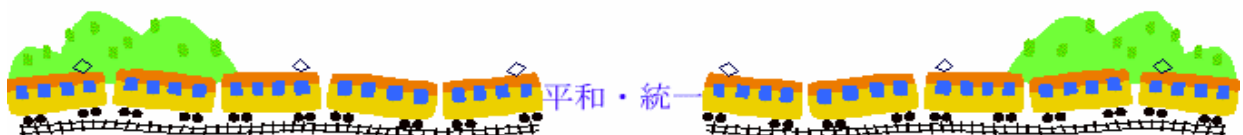
愛知県より、5月24日付けで『特定非営利活動法人の設立について(認証)』という文書が届きました。これからが本番！です。

三千里鐵道では3月1日より募金を開始しました！

募金額：9,398,600円 延べ人数：約780人 (6月5日現在)

多くの方からお預かりしている募金は、資金管理委員会が厳重に管理をしています。

また、募金総額には夢切符購入代金および6.17広告代金およびチケット代金等すべて



「朝鮮」と「韓国」は全く同じ意味を持つ国名

呼びかけ人 金 公 一（北海道在住）

「朝鮮」の国名は「朝が鮮やか」という意味で、4,000年以上使われている。「韓国」（ハングッ）は本来「桓国」（ファングッ）であるが、吏読表記（意味と音をハングルに表記する表記法。日本の万葉「がな」はこれに類する）により「ハングッ」となるが、その語源は「桓=明るい=鮮」という意味を持つ。

また、朝鮮民族・韓民族を古くから「培達民族」と言うが、「培達」の意味も「明るい地」となり、「桓国」と同一になる。

「明るい」という「パク」が吏読表記により「ペ=培」となり、地を意味する「タン」が吏読表記により「タル」となる。明るいとは「鮮やか」で、明るいときとは「朝」を意味する。つまり「朝鮮」も「桓国=韓国」も語源を同じにしている。

朝鮮は4,334年前に建国した最初の国家名だが、その当時漢字は存在せず、当然「朝鮮」という漢字表記も存在していなかった。「桓国」も同じだ。

「朝鮮」も「桓国」も漢字語であり、後に作った表記である。

漢字が存在していない時代において国家名は言葉でしか表現できない。もちろん「朝鮮」を発音する「チョソン」でも、「桓国」を発音する「ファングッ」でもあるはずがない。

つまり古朝鮮の「朝鮮」も、辰国の「馬韓・弁韓・辰韓」も漢字語であり、漢字が存在していなかった時代は漢字語も存在しようがない。4,334年前の国名は「アサダル」と発音していたという。

「アサダル」は固有語であり、後に漢字で「阿斯達」と表記。（注：以後ファンナラ、ペダル、チョソンとなり、その時代により呼び方が変わっても同じ意味を持つ）現在のような文字では表記できない言葉であった。

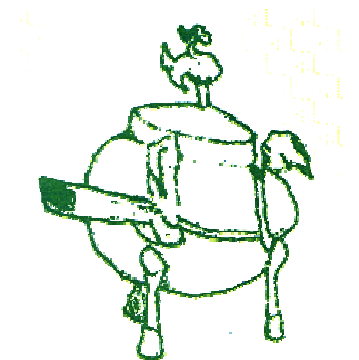
「アサダル」の語源は、古代朝鮮の「朝（アチム）」を「アサ」と発音し、「ダル=タル」とは前記したとおりである。つまり「アサダル」とは朝の地であり、「朝鮮」「桓国」という意味である。

漢字表記として「朝鮮」が最初に使われたのは、李成桂が朝鮮を建国（1394年）してからであり、「韓国」が使われたのは、大韓帝国（1897年）以後の事であるが、「明るい地」、「朝が鮮やかな地」つまり「朝鮮」・「韓国」という意味の国名は半万年使われ続け、受け継がれている。

なお、「大韓民国」は「韓=明るい地」の「民」の「国」であり、「朝鮮民主主義人民共和国」は「朝鮮=明るい地」の「民=民主主義とは『民』が中心となり、人民とは『民』を意味する」の「国」となり、「大韓民国」も「朝鮮民主主義人民共和国」も全く同じ意味で一致する。

現在において、以北を「朝鮮」、以南を「韓国」というのは、便宜上使われるのは仕方ないとしても、以上のようなことから分断を固定するような脈絡で使用してはならないと考えますが、どうでしょうか。（了）

- 三千里鐵道ホームページより転載 -



南北共同宣言一周年を迎えて

昨年6月13日、私たちの目は、ピョンヤン空港に降り立つ金大中大統領とタラップ下で出迎える金正日国防委員長との映像にくぎ付けになり、歓喜に震えた。

そして、6月15日には南北共同宣言が発表され、ウリナラの平和定着と統一への道筋が高らかに謳いあげられた。

南北共同宣言発表後、南北の離散家族が三度にわたって相互訪問を果たし再会した。規模はまだ数百人のレベルであり、離散家族全体から見れば微々たるものではあるが、50年以上にわたる深刻な対立と不信の長い歳月を考えれば、大きな前進と捉えるべきであろう。共同宣言後直ちに着手された京義線の修復工事も、停戦協定に伴う困難な課題を克服しながら、比較的順調に進行したといえる。また、南北の各界において、堰をきったように交流が始められた。

しかし、21世紀に入り、米国にブッシュ政権が誕生し、対北政策の全面的見直しが伝えられるや、南北関係が急速に冷え込んだかに見える。「米国の強硬な姿勢により、北は中国やロシアとの関係を強め、結局朝鮮半島情勢は絡み合った糸のようにこじれるほかない。このままでは七・四共同声明の時のようにまたしても期待が裏切られるほかない。」との悲観論も流れている。

一方、四月のEU代表団の訪北が大きな成果を納め、先に北京で開催されたASEM（アジア欧州会議）の第三回外相会議では、南北朝鮮に対話を促すことが声明に盛り込まれたことなどから、

今後南北関係は好転するであろうとする見方もある。

ここで重要なことは、南北関係が朝米関係の『従属変数』であるかのごとき悪しき事大主義にとらわれてはならないということである。南北共同宣言でも明らかにされたように、ウリナラの平和や統一の問題は、ウリナラが主体となるべきものであり、朝鮮半島情勢をリードするのは、南北当事者の関係に他ならないという立場にたって議論を進めるということである。

ウリナラの平和や統一を願うものとして、決して事大主義に基づいた悲観論に陥ることなく、南北当事者の関係改善のため惜しみない声援を送りたいと思う。

現在の状況を打開するために最も有効な手立てが、金正日国防委員長のソウル訪問であることは、論を待たない。

5月24日、ソウルの外信記者を前にして金大中大統領は「南北共同宣言一周年を契機に金正日国防委員長のソウル訪問の日程を明らかにしてほしい。」と述べたが、これは、ウリナラの平和と統一を願うすべての人々の共通した願いを代弁したものである。

昨年ピョンヤンで、金正日国防委員長は、「恐ろしい道をよくいらっしゃいました。」と、冗談を交えて金大中大統領をねぎらったが、今度は、ソウルで金大大統領が「こんなに遠い道をよくいらっしゃった。」と言う番なのである。

海外同胞と、平和統一を願う世界の人々と手を結んで・・・

三千里鐵道 〒440-0091 愛知県豊橋市下五井町青木31
Tel : 0532-53-6999 Fax : 0532-54-4931
Email : webmaster@sanzenri.gr.jp

ホームページもご覧になってください!

<http://www.sanzenri.gr.jp>
